

## 来たれ! 起業家 かがわを元気にする ビジネスモデルを募集中

(公財)かがわ産業支援財団では、新たな事業を開始する方や事業を開始して間もない方への支援策として、2011年度から「かがわビジネスモデル・チャレンジコンペ」を開催しています。創造的な技術や商品、サービスなどを自ら新規に開発し、新たな顧客や付加価値を創造しようとする、独創的なビジネスプランを11月4日(金)まで受け付けていますので、奮って応募してください。

最優秀賞受賞者は、最大200万円の助成金の対象となるほか、当財団のインキュベータールームや、ネクスト香川のインキュベート工房などに入居される場合に、賃借料が免除(最長2年間)されるなどの特典を受けることができます。

公募要領や過去の最優秀賞受賞者などは、当財団のHPに掲載しています。



2021年度の表彰式



最優秀賞受賞者：一般社団法人香川県運動推進協会

### 問い合わせ先

(公財)かがわ産業支援財団 企業振興部 企業支援課  
☎ 087-840-0391



代表取締役社長 樋口哲也さん(左)と樋口一真さん

価値を与えることへの観点から活用したいと考えていたんです」と、取締役専務の樋口一真さん。「2014年頃から個人的に県産ヒノキを使ったペンを作って試験販売してみても、手応えを感じたことから事業化に踏み切りました」。デジタルデータ化された文字や画像を基に専用機械でものづくりを行う製造技術「デジタルファブリケーション」と出合い、レーザー加工機などの設備を整えるかわら、イベント出展で知り合ったクリエーターと協力しながら、デザイン力やニーズの分析力、商品づくりのノウハウも磨きました。

強みは、自社一貫の仕入れ・製造・販売体制。小物をつくる際に必要な3Dデータも自社でつくり、加工後の仕上げは一つ一つ手作業で行います。木材の含水率や木目まで計算した正確な加工は、材木の経験と知識のため。個人の一点ものから企業のPR配布グッズまでさまざまな注文に応える中で、手掛ける加工の幅もどんどん広がり、レーザー加工機に加えてフルカラー印刷機も導入しました。環境の負荷が少なく軽さや強度がある、木の微細な繊維状物質「セルロースナノファイバー」や、木を好みの形に変形させる流動成形といった最新技術の情報も日々

1931年創業、材木業を軸に発展してきた大洋木材グループ。原木の製材やプレカット(建築資材の事前加工)を手掛ける大洋木材、ホテルやボウリング場などサービス業を展開する大洋開発、レストラン事業の核となる大洋フードアンドサービスの核となる大洋グループの一翼を担うのが、製材加工した木材を流通させる大洋木材市場です。

木材の市場運営を主業とし、設立は1953年。当初は国産材が少なく輸入材メインでしたが、昭和40年

# デジタル技術で精緻に 県産材の木製品好評

発祥の材木業から展開  
ノウハウ生かし高品質に



木のぬくもりを感じる、精密で美しい小物たち。県産ヒノキなど香川の山で育った木の魅力を伝え、材木として利用促進を目指す、香川のものづくり企業を紹介します。

## 株式会社大洋木材市場

住所 高松市観光通2丁目10-15  
創業 1953年  
☎087-833-2311  
<http://www.mokuichi.net/>



調べ「仕入れた木を木粉一つ残さず自社で使い切る」ものづくりを模索しています。

**異業種と連携 海外も視野 香川の魅力底上げを目指す**

「ものづくりを通じて多くの業種と関わる機会が増えたのは、グループにとって大きなメリットです」と樋口一真さん。近年は脱プラスチックの流れを受けた企業からの大量注文に応えるかわら、香川県漆芸研究所をはじめ県内異業種や伝統工芸との連携を通じて、海外展開も視野に入れていきます。グループが運営するホテルやカフェの木質化も目指し「遊びに来れば自然と木に触れ合える体験型の空間で、ヒノキをはじめ県産材の魅力を発信したい。当社はさまざまなニーズを材木業につなげる入り口、言わば広報部門だと思っています」。

モクイチを通じた『木育』のかいあって、県内の建設業界で県産材の認知が高まっている手応えも感じているそう。「SNSなども活用し、県外・海外にも積極的にPRしていきたいですね」と意欲的に語ってくれました。

問い合わせ先  
(公財)かがわ産業支援財団 取引支援課  
☎087-868-9904